

監査業務変革への 取り組み

PwCあらた有限責任監査法人



Journ
Fe
To

Clear
Automated
Manual
accounts pay
annual

Dis
345

ts
9

Total credits
-103,130,383.39

Total net PL
144,161.12

先進テクノロジーの活用で目指す より高品質な監査の在り方

テクノロジーの利用と多様なリソースを組み合わせることで、監査の業務プロセスを変革し
監査品質の向上と効率化を促進します。

また、業務のデジタル化を通じて蓄積したデータを活用し、インサイトを提供します。

監査業務変革に関する取り組み



監査業務変革推進部の設置

AI を用いた監査業務の研究、RPA などの自動化技術の導入、テクニカル・コンピテンシー・センターの活用などにより監査業務の標準化とデジタル化を推進し、さらに高品質な監査の実現や業務の効率化を目的として、監査業務変革推進部を 2018 年 7 月に設置しました。



将来のデジタル化や働き方改革に対応した監査業務の変革を行うことで、
より高品質かつ効率的な監査を提供

品質向上

- AIをはじめとするテクノロジーを利用した高度なリスク評価、データ処理・分析を実施
- 会計士を単純業務から解放し、高度な専門知識を要する業務に専念

効率化

- 業務の標準化およびプロセスの見直しにより、定型的・反復的な業務をTCCに集約
- 単純作業のRPA化

インサイトの提供

- データ解析ツールを用いて、深度のある分析を実施することにより、有意義なインサイトを提供



より密度の高い

良好なコミュニケーションを実施し、
会計・監査上の論点の早期解決



人間では物理的に不可能な
新たな手法の適用による、
不正発見確率の向上



新しい監査の手法に基づいた
インサイトの提供



業務効率化による
監査対応時間の削減

現在のテクノロジーの活用

監査品質を支えるこれらのテクノロジーを利用することで、監査業務を効果的かつ効率的に実施しております。



Aura

PwCの監査アプローチが組み込まれた
PwC全世界共通の電子監査調書システム

「Aura」は、2008年から導入された監査業務に関するグローバルな電子監査調書システムであり、PwCが全世界で実施する全ての監査業務に使用されています。「Aura」に実装された複数拠点の監査をサポートするワークシェア機能と品質チェック機能を利用することにより、複数のロケーションにまたがる監査においても監査手続の重複や実施漏れを防止し、高品質かつ効率的な監査を実現しています。

特長

● 体系的なリスクアプローチ

被監査会社ごとに評価したリスクとその対応手続を視覚化

● 監査品質のチェック機能

各エリアにおいて適切な品質水準となるように自動判定



● ワークフロー管理および

リアルタイムのモニタリング

「Aura」と連携したアプリケーションの利用により、リアルタイムかつ視覚的に業務の品質や進捗状況のモニタリングが可能



Connect

被監査会社との監査関連資料共有システム

「Connect」とは、監査のあらゆる段階において、迅速、効率的かつ安全に被監査会社と情報共有を行うためのツールです。

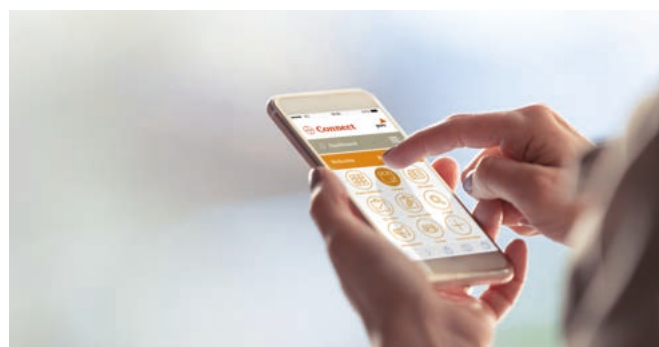
特長

● タイムリーなステータス管理

・被監査会社と監査チームの双方にて、タイムリーなモニタリングが可能

● 安全かつ安心なデータ共有

・誤送信による情報漏洩のリスクを防止
・セキュリティが確保されたウェブ環境を提供





Halo 膨大なデータ分析の迅速化や結果の視覚化を可能とするデータ利用監査ツール

PwCではデータ利用監査ツールとして「Halo」を開発しています。その一つである「Halo for Journal」は、コンピュータ利用監査技法（CAAT）による仕訳データの分析をより効果的かつ効率的に、そしてより視覚的に実施する新しいツールです。

特長

- すべてのトランザクションが検索、検証、分析可能



PCS 確認状プロセスを電子化した取引残高確認システム

「PCS」は、確認状を徹底的に安全に作成、送付、回答、管理するためのウェブ・システムです。フレキシブル・テクノロジーの搭載により、売掛金やデリバティブ、ローン、在庫などあらゆる種類の確認状に対応できます。この画期的な確認手続の導入により、クライアント、監査人および確認先など全ての関係者にとって時間と労力の削減が可能です。

特長

- 回答の迅速化・ペーパーレス化

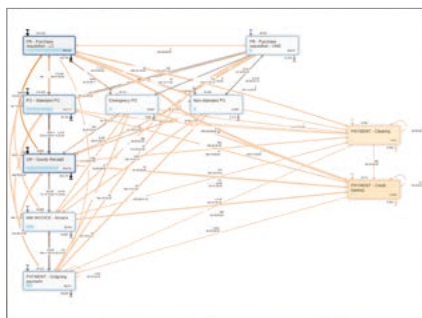


Data Analytics

データ解析ツールを駆使し、監査の高リスク領域への深度ある分析の実施

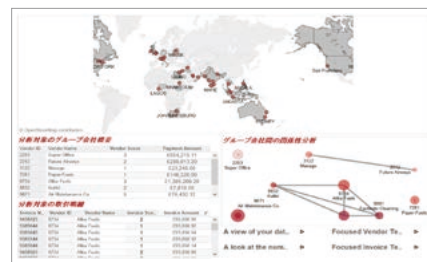
監査リスクに関連する議論には、監査経験豊富な会計士や会計および監査以外の専門的な知識を持つ専門家など、さまざまなメンバーが関与しますが、その議論の過程や結果を被監査会社が理解することは容易ではありません。当法人では、データ解析ツールを駆使し、定量化と可視化を実現することで、監査における高リスク領域の説明能力を高めています。また、データ解析結果を被監査会社と共有することで、密度の高い議論を行っています。データ解析結果を活用しながら、各分野の専門家が関与した議論の過程を含め、被監査会社により多くのインサイトを提供しています。

プロセスインテリジェンス



業務プロセスを可視化し、承認者を飛び越えた申請など、例外的な業務の流れを識別

連結グループ間取引の解析



連結グループ間の取引を可視化し、企業間の関係や取引量を視覚的に把握

監査業務変革への取り組み

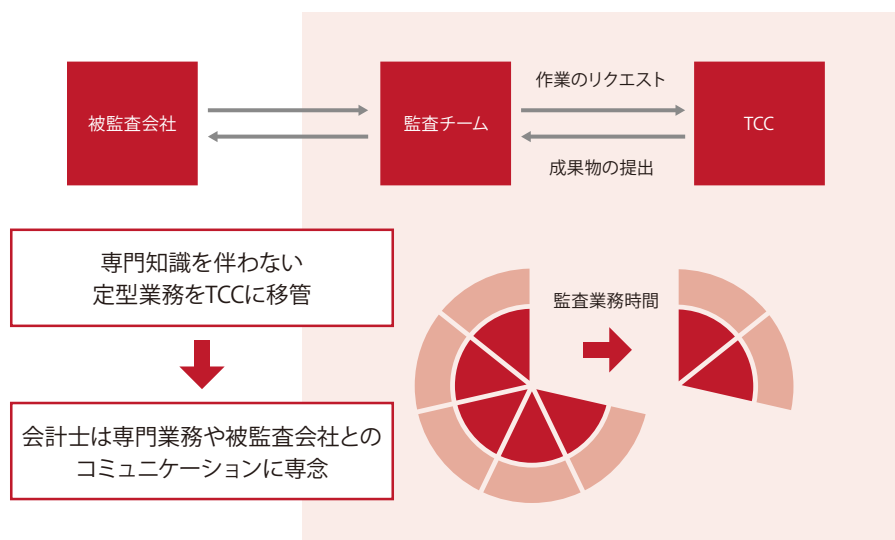
新たなテクノロジーや研究開発、多様な人材を活用することで、監査業務の変革を推進します。



テクニカル・コンピテンシー・センター(TCC)の活用

公認会計士などの資格を有していない監査補助者を「オーディットアシスタント(AA)」として監査チームに配属し、分析表の作成や監査調書の作成などの監査補助業務を担当しています。

2017年10月にTCCの前身となるオーディット・アシスタント・オフィスを設置し、さまざまな監査チームから要望された業務を、各監査現場ではなくPwCあらたのオフィスにて実施する体制を整備しました。これをさらに拡大させ、AAが実施する監査補助業務のうち、監査現場で実施する必要のない業務を標準化し、集中的に実施するTCCを整備することで、監査品質を維持しながらさらなる効率化が可能になります。



RPA



RPAの取り組み

Robotic Process Automation (RPA)の導入により、従来は会計士が担っていた監査手続の準備のためのデータ加工や、データの見える化、単純突合作業などを会計士の手から移管し、価値ある業務にフォーカスさせることができます。

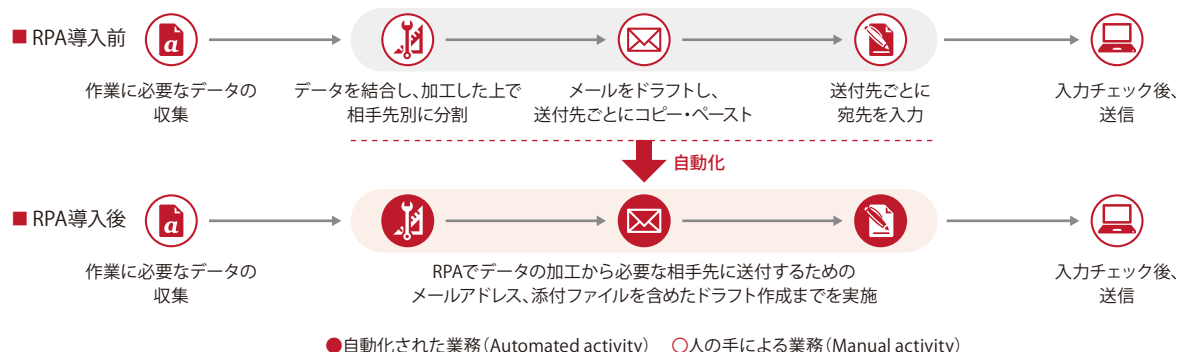
RPAと自動化を導入する上で重要なことは、業務の標準化とデータフォーマッ

トの標準化を同時に進めることです。被監査会社ごとにデータフォーマットが異なることから、監査チームごとに監査調書のファイル形式や作業手順が異なることが多くありました。業務を標準化することで、データクレンジングにおける、RPAなどの活用他、TCCも活用が容易となります。また、標準化されたデータを利用することでRPAを共通利用できる

ようになり、効率化の効果を最大化することができます。

さらには、公認会計士等の資格を有していないものの、テクノロジーのスキルを所持する監査補助者をテクニカル・スペシャリストとして採用しています。すでに個々の業務ではテクニカル・スペシャリストを活用したRPAの導入を進めています。

RPAの事例





AI (人工知能)

AIの利用により「監査業務の効率化および高付加価値化」を実践

AIを利用した監査の研究開発

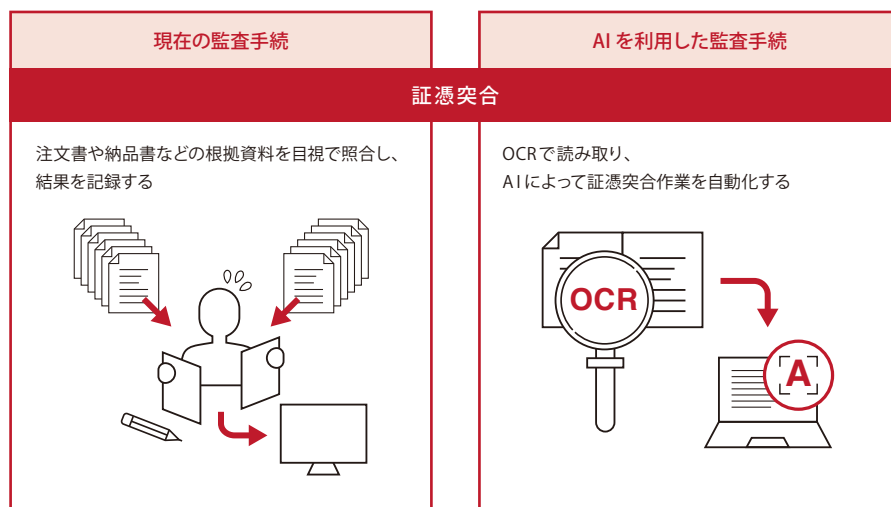
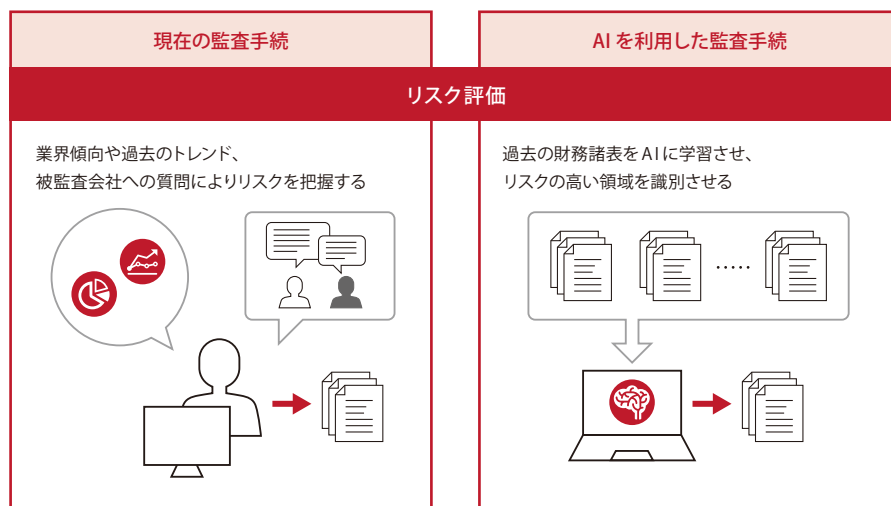
2016年10月に設立したAI監査研究所では、監査法人の知見とAI技術を融合し、さまざまな側面からの開発を行い、「監査業務の効率化および高付加価値化」を実践しています。

2018年4月に試験運用を開始した「AI会計仕訳検証システム」をはじめ、監査計画から実施、完了の各工程においてAIの導入を検討し、研究開発を進めています。

AIを活用した会計仕訳検証システム

AI会計仕訳検証システムは、PwCのデータ利用監査ツール「Halo for Journal」の仕訳データ全件を対象に、機械学習によって一定の法則性を読み取り、個々の仕訳がそれに合致するかを評価することによって、異常な仕訳を抽出します。監査チームは、AI会計仕訳検証システムを利用することにより、膨大なデータを網羅的かつ効率的に分析し、誤謬や不正の可能性を重点的に調べるだけでなく、人間が想定しなかったリスクや課題も浮かび上がらせることを目指します。今後は、本システムに「Halo for Journal」のより多くのデータを学習させることで異常検知の精度向上を図ります。監査業務への本格導入や、仕訳データの検証以外の分野へのAI活用も検討を進めます。

AIの導入による監査業務の効率化のイメージ図



AI 会計仕訳検証システムのイメージ図



PwCあらた有限責任監査法人のご紹介

PwCあらた有限責任監査法人は、卓越したプロフェッショナルサービスとしての監査を提供することをミッションとし、世界最大級の会計事務所であるPwCの手法と実務を、わが国の市場環境に適した形で提供しています。さらに、国際財務報告基準（IFRS）の導入、財務報告にかかわる内部統制、また株式公開に関する助言など、幅広い分野でクライアントを支援しています。

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング
TEL：03-6212-6800

お問い合わせ

pwcjppr@jp.pwc.com